魚津市水道事業経営戦略 【概要版】

［背景］

水道施設は老朽化が進み、今後、施設の更新や耐震化に多額の費用が見込まれるほか、人口減少による料金収入の減少も見込まれており、水道事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。水道事業は料金収入をもって経営を行う独立採算制を基本原則としていることを踏まえ、経営環境の変化に適切に対応し、将来にわたって安定的に事業を継続することが可能となるように、中長期的な視点から経営の健全化と経営基盤の強化を図るため、経営戦略を策定するものです。

［計画期間］

令和７年度から令和 16 年度の 10 年間とし、中間年で見直しを行います。

［歳入］

直近では令和元年 10 月に料金改定を行いました。なお、令和２年度は新型コロナウイルス感染症対策として、令和４年度には物価高騰対策として、それぞれ基本料金等の減免を実施しています。

今後は、健全な水道事業を持続するために、社会情勢に合わせ適切な時期に料金改定の検討を行っていきます。

図1　R6歳入(上水・簡水)

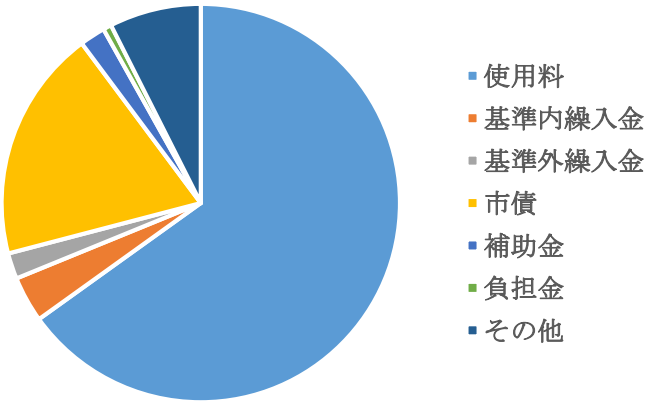


図2　R16歳入(上水・簡水)

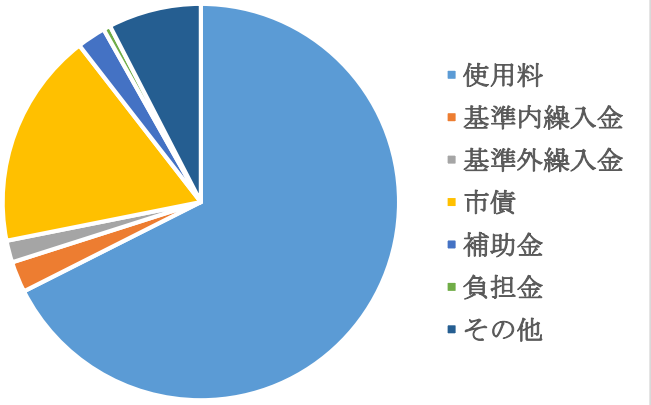


表1　歳入　　（単位：千円）

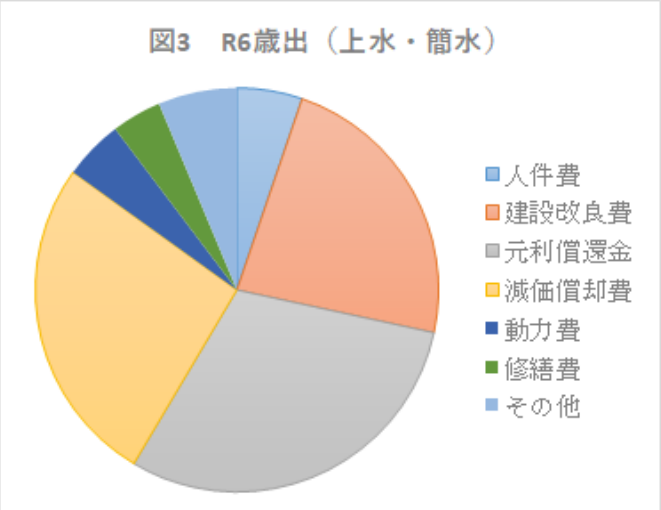
年度	使用料	基準内繰入金	基準外繰入金	市債	補助金	負担金	その他	計
R6	543,310	31,101	17,539	157,600	17,307	5,663	62,120	834,640
	65.1%	3.7%	2.1%	18.9%	2.1%	0.7%	7.4%	
R16	587,481	21,901	15,548	153,300	20,360	5,000	65,953	869,543
	67.6%	2.5%	1.8%	17.6%	2.3%	0.6%	7.6%	

※　数値等は、上水道・簡易水道事業を合算したもの。以降の図表も同様。

［歳出］

基本施策を実行するために必要な事業費は、計画期間内で約 27 億円となります。

主要事業として、新規事業としては横枕浄水場更新事業、高区再編・耐震化事業(上水道)、耐震化事業(簡易水道)を、継続事業としては水道管路緊急改善事業(基幹管路更新)を行います。



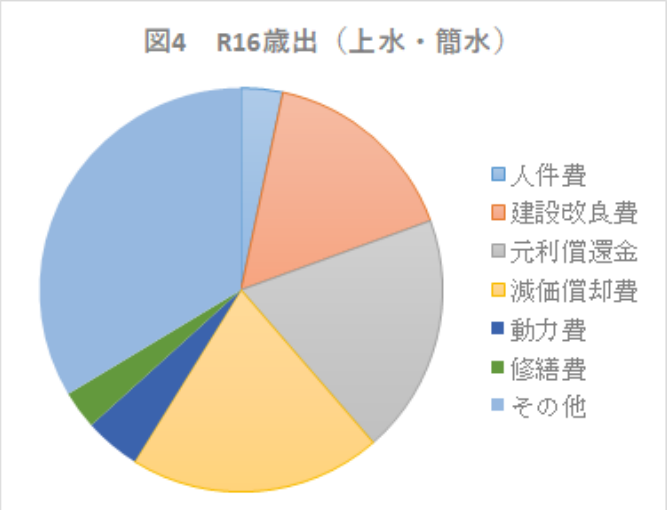
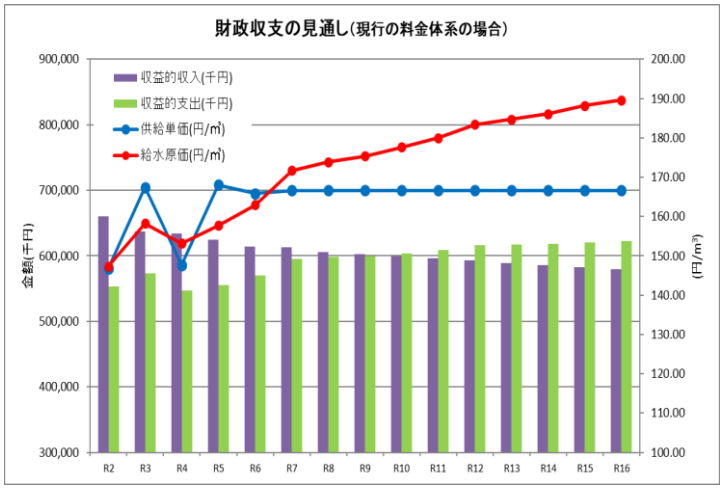


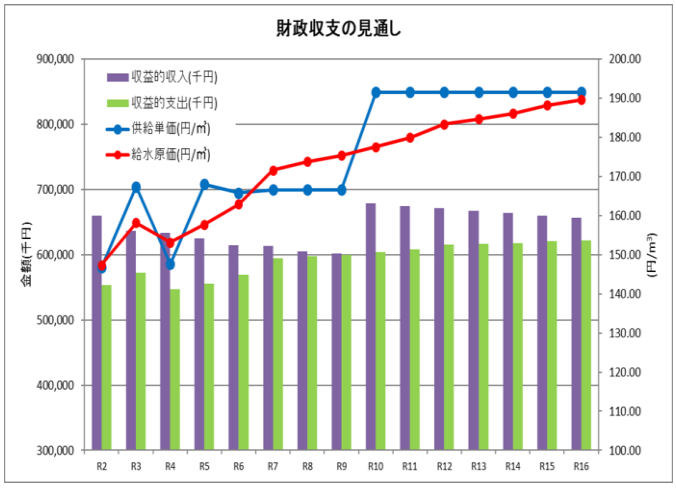
表 2　歳出　　（単位：千円）

年度	人件費	建設改良費	元利償還金	減価償却費	動力費	修繕費	その他	計
R6	57,534	254,022	330,709	289,234	52,425	43,917	454,906	1,097,171
	5.2%	23.2%	30.1%	26.4%	4.8%	4.0%	41.5%	
R16	51,746	250,000	298,052	314,170	69,558	47,671	521,769	1,121,567
	4.6%	22.3%	26.6%	28.0%	6.2%	4.3%	46.5%	

［財政収支の見通し］

計画期間中の収支を試算したところ、令和 7 年度から給水原価が供給単価を上回り、令和 10 年度からは収益的支出が収益的収入を上回る結果となりました。健全な事業運営を維持するため、料金改定の検討を早期に行います。今計画では、令和 10 年度に前回改定と同程度（15%）の料金改定を行うと仮定して試算しました。





［効率化・経営健全化の取り組み］

計画的な漏水調査及び早急な修繕実施、適切なペースでの管路更新、施設・設備の長寿命化等によるコストの縮減や投資の平準化等の取り組みを行い、健全な水道事業を持続するために、健全な魚津市水道事業の持続と魚津市水道事業新水道ビジョンで掲げる目標の実現のために、より一層の経営改善に努めます。